

熊本県知事 蒲島郁夫 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康  
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一  
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也  
白川の安全と立野ダムを考える白川流域住民連絡会 共同代表 松本 久 他4名  
代表連絡先 熊本市西区島崎4-5-13 中島康

## 白川の流域治水協議のやり直しと 立野ダム建設中止を求める申入書

報道によると2020年9月30日と2021年3月18日、「白川・緑川水系流域治水協議会」が開催され、わずか2回の会合で両河川の「流域治水プロジェクト」は承認されました。

流域治水とは、流域のさまざまな関係者の力を集めて豪雨災害を防ぐ、という考え方です。ところが、同流域治水協議会のメンバーは国土交通省や関係首長など行政関係者だけであり、流域の住民や専門家、防災関係者などは全く含まれませんでした。また、開催日も2日前に記者発表されるだけで、住民は開催後の新聞報道でしか開催を知ることができませんでした。

国土交通省による2012年の「立野ダム事業検証」では、パブリックコメントの募集や公聴会も開催されました。流域治水と言いながら、住民参加や情報公開という点で国や県の姿勢は大きく後退しています。同流域治水協議会で検討された対策案も具体性に乏しく、数値化されたものでもありませんでした。

2012年の「立野ダム事業検証」で国土交通省は、立野ダム以外に14の治水対策案を検討し、提示しました。特に、治水対策案⑨「中流部遊水地など」、治水対策案⑩「黒川遊水地（地役権方式）など」、治水対策案⑫「雨水貯留施設＋雨水浸透施設＋水田の保全など」、治水対策案⑬「輪中堤＋遊水機能を有する土地の保全など」、治水対策案⑭「雨水貯留施設＋雨水浸透施設＋水田の保全＋土地利用規制など」は、まさに流域治水の考え方そのものを9年も前に白川で具体化したもので、立野ダムなしの治水対策を真剣に検討しており、その後の黒川河川激甚災害対策特別緊急事業（激特）にも生かされています。

熊本県が進めた黒川の激特事業（事業費183億円、平成24年度よりおおむね5年間）により、河道掘削や遊水地、輪中堤の設置、宅地嵩上などが行われましたが、その内容はまさに「黒川の流域治水」と言えるものであり、私たちは高く評価するものです。

激特前の小倉遊水地の洪水調節流量は毎秒140 m<sup>3</sup>との資料（黒川「小倉遊水地」について 後藤真一郎）が存在しました。そこで私たちは、激特による7つの遊水地の洪水調節流量（毎秒何m<sup>3</sup>カットできるか）を県に情報開示請求しましたが、県は「そのような行政文書は存在しない」との回答でした。

県が開示した資料には、各遊水地の容量は掲載されており、7つの遊水地の貯水容量の合計686 m<sup>3</sup>から計算すると、7つの遊水地の合計の洪水調節能力は毎秒520 m<sup>3</sup>となります。その数字は、立野ダムの洪水調節能力（毎秒200 m<sup>3</sup>）の2.5倍以上であり、令和2年1月に変更された白川水系河川整備計画の洪水調節（立野ダム＋黒川遊水地群）毎秒300 m<sup>3</sup>を大きく上回ります。つまり、立野ダムがなくても、河川整備計画の洪水調節を十分クリアできるのです。

同流域治水協議会の資料に「田んぼ貯留では、通常の堰板高より10 cm高くする」との記述が

あります。白川流域の水田 55 平方キロに 10 c m 雨水をため込めば、約 550 万 m<sup>3</sup>の容量があります。さらに流域の水田は「ざる田」と言われるように高い浸透能力を持つため、それ以上の水害防止効果があり、熊本の地下水涵養にもつながります。田んぼ貯留や地役権遊水地は立野ダム建設と比べ、より早く、より安く、より確実に白川の洪水ピーク流量を下げることができます。

2016 年 4 月の熊本地震では、立野ダム本体予定地及び水没予定地の大半が大規模な斜面崩壊を起こし、周辺では多くの活断層も確認されています。熊本地震の時に立野ダムができていたら、幅 5m しかない立野ダムの穴は流木や土砂、岩石などでふさがり、ダムは埋まり、流域を災害から守るどころか、災害をひき起していたはずです。このような地盤がぜい弱な火山地帯にダムを造って豪雨時に水がたまれば、更なる斜面崩壊が起こるのは明らかです。

私たち住民はこれまで、立野ダム建設に関する公開質問状を 9 回にわたって提出しましたが、国土交通省は一度も回答せず、ただホームページを読めとのことでした。ホームページに掲載された「回答」を読むと、住民からの質問に対して論点をすり替え、国土交通省の主張が一方的に書いてあるだけです。また、一般住民を対象とした立野ダム説明会の開催を何度も求めたにもかかわらず、開催されていません。

今回の「白川・緑川水系流域治水協議会」での流域治水の検討は、立野ダムありきの「まやかしの流域治水」としか言えません。ここに、下記 3 項目を国土交通省に対して要請されることを申入れます。

## 記

1. 白川の流域治水協議会のメンバーに、流域住民や学識者などをはじめとする流域の人材も加え、流域治水協議会をやり直すこと。
  2. 国土交通省が 2012 年の「立野ダム事業検証」で立野ダムを検証した際の、14 の治水対策案をすべて流域治水協議会でも検討し、田んぼ貯留（田んぼダム）などの治水効果を数値化すること。
  3. 白川の災害対策については、住民の意見を反映したものとし、熊本県民に危険をもたらす立野ダム建設を即時中止すること。立野ダムに関し、これまで住民が提出してきた 9 通の公開質問状に対し、論点をすり替えてインターネットで「回答」するのではなく、地域ごとに説明会を開き、質問項目ごとに論点をすり替えずに説明し、住民の不安や疑問を解消すること。
- 以上

## 【参考資料】

これまで国土交通省に対して提出した 9 通の公開質問状

- ① 立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する公開質問状 平成 25 年 10 月 1 日
- ② 立野ダム事業の放流孔の閉塞、堆砂に関する公開質問状その 2 平成 25 年 11 月 15 日
- ③ 立野ダムの穴の流木対策に関する公開質問状 平成 27 年 11 月 26 日
- ④ 立野ダム建設に係る技術委員会に関する公開質問状 平成 28 年 12 月 5 日
- ⑤ 「立野ダム建設に係る技術委員会の技術的な確認・評価」等に関する公開質問状 平成 29 年 5 月 24 日
- ⑥ 「立野ダムの洪水調節（CG 動画）」等に関する公開質問状（その 6）平成 29 年 7 月 25 日
- ⑦ 世界ジオパーク指定の阿蘇・立野峡谷の柱状節理破壊と立野ダム本体予定地右岸の柱状節理に関する公開質問状 平成 29 年 9 月 24 日
- ⑧ 10 月 31 日の国土地理院の活断層図「阿蘇」の公表と立野ダム技術委員会に関する公開質問状 平成 29 年 11 月 15 日
- ⑨ 立野ダム事業に関する公開質問状（その 9）平成 30 年 1 月 12 日